

市立大森病院の方針書

組織名	市立大森病院
所属長名	事務局長 備前 寿

1. 組織の使命(ありたい姿)

○保健、医療、福祉、介護が一体となった「地域包括ケア」を支える病院として、地域住民の健康、保健衛生並びに高齢者福祉に関する医療サービスを提供していく。  
 ○安全で安心な医療の提供と健全で安定した経営の確保とともに、地域住民に信頼され、魅力ある病院づくりを推進する。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 医師、看護師等の働き方改革と人材の確保・育成
- 地域人口減少に伴う入院患者及び外来患者の確保対策
- 健全経営の確保(収益確保と経費削減)

3. 今年度の『スローガン』

ニーズの変化に対応した改善と改革で地域に必要とされる病院を目指す

4. 今年度の方針

- ウイズコロナ時代の適切な医療提供体制整備と対応
- 地域包括ケアを支える「地域密着型病院」として「治し」「支え」「寄り添う」医療を推進
- 健全経営に向けた業務改善と意識改革の継続的な取り組みと推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	ウイズコロナ時代の適切な医療提供体制整備と対応
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナパンデミックの経験を踏まえたウイズコロナにマッチした院内感染対策の徹底</li> <li>・地域住民へのワクチン接種等への協力</li> <li>・新興感染症に対応できる院内施設・組織の構築</li> <li>・医療Dxを活用した診療体制の整備と推進</li> </ul>
(2)	実現したい成果	地域包括ケアを支える「地域密着型病院」として「治し」「支え」「寄り添う」医療を推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の質向上に向けて取り組みを強化</li> <li>・健診・人間ドック、保健指導等予防事業の一層の充実</li> <li>・医療介護連携、地域連携の推進で地域完結型医療体制の構築</li> <li>・在宅療養支援体制の強化と人生の最終段階を支えるACP(アドバンスケアプランニング)の推進</li> </ul>
(3)	実現したい成果	健全経営に向けた業務改善と意識改革の継続的取り組みと推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院機能向上のための業務改善の推進</li> <li>・効率的運営を行うための職員の意識改革</li> <li>・地域医療構想への的確な対応と公立病院経営強化プランの策定</li> <li>・患者満足度と職員満足度向上への取り組み</li> </ul>

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ウイズコロナ時代の適切な医療提供体制整備と対応
  - ・3病棟 簡易陰圧装置整備(2室) 簡易陰圧装置5室→7室
  - ・感染管理認定看護師養成:R5.4.1～師長室付で感染管理対応(10/5認定審査受験予定)
  - ・地域住民へのワクチン接種実績:R5春接種2, 279名(6/19-7/13)
- 地域包括ケアを支える「地域密着型病院」として「治し」「支え」「寄り添う」医療を推進
  - ・人間ドック枠の拡大:実績 一泊ドック+12人+5.0% 日帰り+3人+1.0%
  - ・糖尿病教室の再開(R5.8.1実施(10/17・12/5・3/5予定))
  - ・健康の丘祭り・病院祭 コロナ感染状況、インフルエンザの感染拡大により中止
- 健全経営に向けた業務改善と意識改革の継続的な取り組みと推進
  - ・公立病院経営強化プラン第1回研修会の実施 9/19 16:00～ 八幡平市病院事業管理者 望月先生

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ウイズコロナ時代の適切な医療提供体制整備と対応
  - ・地域住民へのワクチン接種(秋接種)10/16～11/10(120人×15日=1,800人)
  - ・AI問診システムの利用促進
- 地域包括ケアを支える「地域密着型病院」として「治し」「支え」「寄り添う」医療を推進
  - ・ナイトスクール開催(11/17(大雄地区) 3月中旬(大森地域))
  - ・訪問系サービス(訪問リハ・訪問介護)の利用者の確保
- 健全経営に向けた業務改善と意識改革の継続的な取り組みと推進
  - ・公立病院経営強化プランの策定(R6.1公表予定)
  - ・タスクシフト・タスクシェアによる医師看護師等の負担軽減の促進
  - ・患者満足度調査(R5.12予定)/職員満足度調査(R6.1予定)

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- ウイズコロナ時代の適切な医療提供体制整備と対応

今年度2度院内クラスターが発生、感染力が強く、無症状感染者も多数おり、入院制限などを行ったが感染制御に時間を要し収束まで相応の時間を要したところも影響し、経営には大きなインパクトがあった。感染管理認定看護師を中心に院内感染対策を徹底し、安心安全な医療提供体制の構築に向けた取組を強化していく。
- 地域包括ケアを支える「地域密着型病院」として「治し」「支え」「寄り添う」医療を推進

コロナ渦で中止していたナイトスクールや糖尿病教室など地域住民や患者様を対象とした勉強会を再開。地域密着型病院として地域に寄り添い、患者様に寄り添った医療を引き続き提供していく。
- 健全経営に向けた業務改善と意識改革の継続的な取り組みと推進

R5.5.8以降新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが5類に移行されたが、感染力が強いため感染対策には費用も時間も必要となる。また、燃料費、資材などの高騰もあり費用は高止まりしている。それに加え入院外来患者数は人口減少の影響もありコロナ渦以前の水準には戻っておらず、厳しい経営環境となっている。

今年度、策指定中の経営強化プランにおいては、二次医療圏における病院の立ち位置、役割を明確化し、横手病院、平鹿総合病院などと連携し、収益確保、経費削減に取り組み、令和9年度には黒字化できるよう経営改善に取り組んでいく。